

# 中国新移民は日本をどう変えるか

ジャーナリスト 舛友雄大



\*著書のタイトル「潤日」について

\*旧移民とは違う新移民の特徴

\*アリババ創業者も日本で不動産を所有

\*資金手当てに地下銀行活用も

\*集中傾向が見えるIT分野

\*新移民の子弟が文京区に集まる理由

\*日本をベースに第二の孫文は出現するか

\*これからも潤日が増える背景を考える

\*中国系CEOが生まれる日

\*日本における中国の「秘密警察」の動静

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日の講師をご紹介します。講師はジャーナリストの舛友雄大さんです。

舛友さんは「中国新移民は日本をどう変えるか」というテーマでお話しいただきます。日本橋でも、中国の方を旅行者として見かけることはありましたし、日本橋近くのタワマンに中国の方が投資をしているという話はよくありました。しかし、最近では30代ぐらいで、赤ちゃんを連れて、住んでいるんだと思う中国の方がたくさん三越なんかにも来ていらっしやるし、それからタワマンだけではなくて、私の郊外の方の近くにも一戸建てが建っていて、今度中国の方がここに住むというようにちょっと状況が変わってきております。

今日のこのテーマについては、おそらく私は舛友さんが今の日本のジャーナリストの中でいちばん詳しく、いちばん取材をされている方だと思います。

舛友さんのご案内しておりますけれども、英語はもちろん、中国語、インドネシア語もなさいます。特に中国語は自由自在ですので、この問題について中国の方に直接インタビューをしたり、議論をしたりということができそうです。その強みが発揮されていると思います。

東洋経済から『潤日』という本が発売されております。これは去年の段階でお書きになったものですけれども、今の実態がどうなっているかを客観的にきちっとつかんでいきたいというご趣旨で書かれたものであります。